25 journal
society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU　okamura.nobuyoshi@gmail.com

大河「べらぼう」の蔦屋重三郎

谷津矢車さんが人物と周辺を語る

2025年のＮＨＫ大河ドラマは「べらぼう～蔦重栄華之夢噺～」。江戸の版元として喜多川歌麿を見いだし、東洲斎写楽を世に出した蔦屋重三郎の半生を追う。その見どころを、『蔦屋』の著書を持つ青梅市在住の作家・谷津矢車さんが語る。（岡村繁雄）

谷津さんが、蔦屋重三郎を主人公に『蔦屋』（文春文庫）を描いたのはおよそ10年前のこと。そのころ、蔦屋を取り上げた作品はそれほど多くはなかったという。とはいえ、その存在感は谷津さんの執筆意欲を刺激した。

「彼には文化の守護者という顔があり、一方で新しいものを手がける前向きな面もある。版元は黒子に徹する者が多いが、蔦重は違う。みずからが前に出て、蔦屋をブランド化し草紙や浮世絵を売っていく。そんな現代のプロデューサー的な生き方は興味深い」

重三郎活躍の背景として、江戸時代中期、宝暦・天明年間という時代を見逃すことはできない。この時期、幕府老中の田沼意次が行った商業を重視する政策によって町人文化が栄えたのである。江戸の町に金が回り、庶民が活躍する様子を若手俳優中心のキャストが演じる。

「蔦屋には、何人もの戯作者や絵師が集まった。そこには、彼らを誘う磁場があったのかもしれない。例えば、幕府の禁令を犯して処罰された山東京伝（さんとうきょうでん）。重三郎は彼が失意のとき、はじめて稿料を出すことで再び筆を執らせている。作家の個性や江戸の人々のニーズに応じてヒットを連発させた」

そう話す谷津さんは、最新作『憧れ写楽（あくが）』（文藝春秋）で謎の浮世絵師に挑む。大胆にデフォルメされた役者の大首絵が人気になったにもかかわらず、わずか10カ月で忽然と姿を消してしまう。蔦屋重三郎は、なぜ写楽の正体を隠したのか……。谷津さんの作品では、これまで誰も指摘したことのない意外な人物を明らかにしていく。

『蔦屋』（文春文庫）

喜び届け、音楽の裾野・地域の広がり

ランドセル・コンサートに共鳴の輪

大和田さん（左）から同市子ども家庭支援センターの深谷所長にランドセルが手渡された

国立ランドセル・コンサート２０２４が12月14日、旧国立駅舎広間であった。地域の音楽仲間でつくるクニバン（KUNITACHI BAND）や音大出身の音楽家ら計20人ほどが出演した。２００人近い人が師走のひと時に聞き入った。

２０１７年から開催する同コンサート。ランドセルを贈るという目的が明確で、師弟で出演するなど回を重ねるごとに出演者の裾野が広がっているほか、一昨年から会場を駅舎に移し、昨年は羽村市でも開催するなど繋がりも拡大している。

１部は、バンドマスターでチェロの大和田龍之助さん、サックスの津賀弘人さん、ピアノの武本和大さん、ドラムの岡本光正さんによるクニバンの演奏。「枯葉」「ディア・オールド・ストックホルム」などジャズナンバー５曲を披露。耳に覚えがある名曲に誰もが聞き惚れた＝写真左上。

２部はピアノの望月頌子さん、髙橋なつみさん、サックスの大森麻戸佳さん、声楽の金杉瞳子さん、フルートの村上弥穂さん＝写真左下＝国立音大出身の音楽家による演奏。「アヴェマリア」などを奏で、駅前をクリスマス色に染めた。

幕間に贈呈式が行われ、観客らの寄付を基に購入した男児用、女児用のランドセルが大和田さんから国立市子ども家庭支援センターの深谷夏人所長に手渡された。併せて大和田さんと親交が深い羽村市の田村実さんが手提げ袋いっぱいの鉛筆を寄贈した。同支援センターからは感謝状が返された。

「喜ぶ人がいて、音楽の裾野が広がり、地域の元気につながるコンサートを今後もがんばりたい」と大和田さんは話した。

青梅婚活応援隊と3JAが初共催

婚活パーティー55人参加 カップル6組

市民がボランティアで活動する「Ａｎａｍｉｒａ（アナミラ）青梅婚活応援隊」（青梅市今寺）と西多摩にある３ＪＡ（ＪＡにしたま、ＪＡ西東京、ＪＡあきがわ）が初共催した婚活パーティーが12月15日、「Ｓ＆Ｄたまグーセンター（青梅市文化交流センター）」（青梅市上町）で開催された。

パーティーには男性27人、女性28人が参加。自己紹介、お見合い回転すし、トークタイム、ビンゴ大会などで互いを知り合い、意中の人を探した。告白カードに記入し、カップル６組が誕生した。

開会で宮崎精一会長は「地元ＪＡとの共催になり、参加しやすい環境が整った。これまで通り青梅市の後援や地元企業の協賛も活動の原動力になっている。参加者の皆さんには今日の出会いを大切にしてほしい」とあいさつ。森田龍幸ＪＡにしたま代表理事組合長は「自分の気持ちを伝えるのは難しいことだが、素直な気持ちを相手にぶつけてください」と呼びかけた。

アナミラは活動10年。これまでカップル１００組以上が成立、10組以上が成婚してきた。３ＪＡは、各ＪＡが順番に幹事を担当し、毎年12月に男性組合員向けの婚活パーティーをコロナ禍前まで10年以上開催してきた実績があった。